

HIV感染症とその合併症

診断と治療ハンドブック



HIV感染症とその合併症
診断と治療ハンドブック

ACC

巻頭言

HIV診療のハンドブックは英文で記載された優れたものがすでにいくつか存在します。しかしながら日本語で記載され、かつHIV診療の全体像を簡潔にまとめたものはあまり類書がないように思われたため、本書を企画することにいたしました。

本書は3部で構成しています。

Part1では素早く参照できて、臨床現場で有用と思われる図表をまとめました。

Part2ではHIV感染症で遭遇しうる各種日和見疾患について「病原体、臨床像、診断、治療」を見開き2ページに簡潔にまとめ、なるべく多くの写真や図表を用いて、視覚に訴えて理解ができるよう工夫しています。

Part3では、いくつかの重要項目について取り上げ、なるべく多くの紙面を割いて解説を試みました。取り上げる内容や記述の正確性については十分注意を払いましたが、取り上げられるべき他の項目や修正が必要な点があるかもしれません。

読者のご批判は大いに歓迎し、今後も改訂版を出していくことを検討しています。

本書を白衣のポケットに入れていただき、日常診療で活用して頂けることを願っています。

2005年3月

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業
HIV感染症の医療体制の整備に関する研究

主任研究者 木村 哲
編集 照屋 勝治

本書に関するご意見は

〒162-8655

新宿区戸山1-21-1

国立国際医療センター

エイズ治療・研究開発センター

照屋 勝治

kteruya@imcj.hosp.go.jp

まで郵送か、電子メールでお寄せください。

このハンドブックは

Part1 参考図表

Part2 日和見疾患の診断・治療

Part3 解説

この3つのパートで

できています

AIDS Clinical Center (ACC)

国立国際医療センター

エイズ治療・研究開発センター

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業

HIV感染症の医療体制の整備に関する研究

(主任研究者 木村 哲)

● Part1 参考図表

急性感染の症状	6
CD4 数と考えられる疾患	7
エイズ指標疾患	11
針刺し事故の時の対応	12
薬剤耐性変異(1)	16
薬剤耐性変異(2)	17
薬剤耐性変異(3)	18
日和見感染の予防	19
抗 HIV 薬の特徴(1)	20
抗 HIV 薬の特徴(2)	22
抗 HIV 薬の特徴(3)	24
抗 HIV 薬の特徴(4)	26
リファンピシンと PI の併用	28
リファブチンと PI の併用	30
乳酸アシドーシス	32
治療薬研究班で入手可能な未承認薬の一覧	34
血中濃度の目標値一覧	35
外来でのチェックポイント	36
外来での検査項目	37
外来で適宜実施すべき検査	38

● Part2 日和見疾患の診断・治療

口腔食道カンジダ症	42
クリプトコッカス	44
クリプトスポリジウム下痢症	46
サイトメガロウイルス網膜炎、腸炎	48
細菌性肺炎	50

アメーバ赤痢(腸炎・肝膿瘍)	52
帯状疱疹	54
進行性多巣性白質脳症(PML)	56
播種性 MAC 感染症	58
結核	62
ニューモシスチス肺炎(PCP)	64
トキソプラズマ脳症	68
脳原発リンパ腫	70
梅毒	72
ヒトパピローマウイルス感染症 (尖圭コンジローマ、子宮頸癌、他)	74
尿道炎(クラミジア、淋菌、その他)	76
カポジ肉腫	78
AIDS 関連悪性リンパ腫	80
伝染性軟属腫	84
血小板減少性紫斑病	86

● Part3 解説

HIV 感染症に合併した C 型肝炎の管理	92
免疫再構築症候群	96
小児における HIV 感染症の治療	102
母児感染予防、感染妊婦の管理および治療	120
一般診療において HIV 検査を考慮すべき場合	132
HIV 治療開始のガイドライン	138
HIV 治療薬(2005 年 3 月現在)	160